

## 山紫水明の京都「観月の夕べ」開催

9月10(土)に京都・東山にある霊山正法寺にて「観月の夕べ」が行われました。当日は、たくさんのお客様にご参加いただき、夕日を眺め、京都の伝統と自然の素晴らしさを学び、おいしい食事とお酒に舌鼓を打ち、リラックスして音楽を楽しみ、月を愛でる、というなんとも贅沢な時間を楽しみました。



「観月の夕べ」チラシ

会場の霊山正法寺は高台寺の南側をさらに上って行った、あの辺りでもっとも高い位置にあり、京都市内が一望できます。今回はこちらで会場をお借りし、夕日～月までの移ろい行く風景を眺めながら、自然とのよりよい共存を考える催し「観月の夕べ」に参加しました。

五時半の受付に合わせて皆さん登ってこられますが、想像以上の傾斜と日ごろの運動不足？もたたつてか、皆さん息を荒げ、汗びっしょりでした(当日は残暑が厳しかったです)。

日が沈みはじめるとそんな苦労も吹き飛ばす素晴らしい光景で、「こんな場所があったなんて」「こんなにゆっくり夕日を眺めるのいつ以来だろう？」といった声がそこで聞かれました。

その後は「いづ重」のお弁当(折)および「月桂冠」様より協賛いただいた大吟醸酒を楽しみました。おいしかった。境内に湧く「山の井」から汲み出した水で淹れた水出し玉露もほんのり甘く味わい深くほっこりしました。

最後は朝倉彩氏による多弦箏と八幡順氏バイオリンの「幽山の月」を鑑賞。多弦箏は見慣れない楽器ですが弦が30あり、高い音から普通は使わない低い音まで多様な音が出せる楽器で、演奏は「幽玄」という言葉がぴったりの深みがあって壮大なものでした。

ちょうど演奏が始まるころに月が眺められる高さまで上ってきて、雰囲気は最高潮。

日没から月の出までの劇的な風景の変化と盛り沢山の企画で晩夏～初秋の京都を堪能した一夜となりました。(早崎)



見事な夕日



参加者の自己紹介タイム

夕日を見届けた後は、まずはミニ講座。三人の講師の方にお話をいただきました。「京都の水とお酒」月桂冠技術部副部長 白濁 昌彦(シラカタ マサヒコ)氏  
「東山の現状について」/森林インストラクター・上萩寛氏  
「『山の井』について」/カッパ研究会・鈴木康久氏  
お一人10分程度と短いものでしたが、自然と生活のつながっていること、現在の東山の森の状況、歴史的文献に記載されているものが現代に残っているということの意味、とそれぞれとても中身の濃いものでした。

## 第七回委員アンケート結果

数少ないながら、熱いメッセージをいただいています。最近、すっかり店じまいムードが漂う、100人委員会！「まとめよう」とか「振り返ろう」とか、そんな話ばかり。でも、本当に、みんな100人委員会でやりたかったことが達成できたのでしょうか。いただいたメッセージからは、もっと人と繋がれるんじゃないか、成果を出すのかこれからという想いが伝わってきます。ほとんどの委員の皆さんも同じ想いだと思えます。もう一度、最初の目的を思い返し、これからの10月の全体行動やその次のステップを通じて、やりたいこと、やれること、やるべきことを実行に移しましょう。(宇野)

	100人委員会の残りの期間で実現したいこと	皆さんに呼びかけ、協力を求めたいこと
梶宏	行政及び議会との、できる限り「よく理解し合える関係」をもてるよう、100人委員会参加者の個々の努力も含めて、いろいろな働きかけがされるといいですね。行政の仕組みの勉強。議員との関係はフラットに密接に！おたがいが高めあうという視点で。	
勝見九重	プロジェクトチームでの活動を少しでも進めること まだ交流していない人々と交流したい	
絹川雅則	①出席率がダウンしているのは何故？モチベーションが下がったのは何故？という対話をする時間をとっていただきたい。 ②100人委員会が1～3期で活動してきた事は、何がgoodで、何ができなかったのか？そして、今後どうにしてみたいか、よく話し合いたい。	③100人委員会のメンバーではないが、本当は一緒に活動したかった人、共に語りあいたい人物を少なくとも5人に声をかけ、2人は10/23に出席いただけるよう、働きかけてもらいたい
篠原幸子	①委員さんともっとつながること ②全体行動・プレママウィークの成功 「ここにコステーション・プレママ割 実施協力施設の拡大 ③12月に「よかった」と思うこと	①10/29～11/6のプレママウィークの時に、プレママ割に協力いただける施設を教えてください。 ②ここにコステーション・プレママ割に協力するよ!!という施設を教えてください。 ①②のいずれも、委員さんの自分の企業や施設でも、ぜひご協力下さい☆ ③11/6にここにコフェスティバル@こどもみらい館の当日スタッフを募集しています。もちろん遊びにきてくれても大歓迎です!!
竹内香織	写真入り名簿完成記念友達100人増量キャンペーン	こどものまちづくり ミニ京都 10月には松井山手、3月ごろには東山で開催しますヨ。
谷口英明	「歩きやすい道」評価項目チェックシートにもとづいて、できる限りの道(通り)の「歩きやすさ」を調査したい。 <環境・景観部会の活動>	委員の皆さんに、自分の気になる道(通り)を歩いてもらって「歩きやすさ」を調査していただきたいと思っています。
土橋正裕	自分のプロジェクトチームの中で自分の役割を果たしていきたい。 100人委員会の人たちとたくさん話して、どんどん知り合いを広げていきたいです。	これから懇親会があればぜひとも参加してゆきたいので、学生の自分ですがよろしくお願いします!!
萩原三義	100人委員会の枠組みを「はみ出して」でも、「未来まちづくり」というキーワードを中心とした「プラットフォーム」を作りたい。	これまで「まちづくり」の経験や専門的な知識を持っている方と、年に数回(3～4回)でも継続的に経験や知識を交換し合う場を作る。 特に行政マンと市民が共に対話できる場となれば良いと考えます。
藤崎	カツゼツを良くしたい	暖かく見守ってください

## 100人委員会ガイドブック第二版完成

『100人委員会ガイドブック作成～100人委員会をめぐる冒険プロジェクト』(代表世話人：萩原三義)は、2010年9月24日(土)に開催が予定されている、「京都市未来まちづくり100人委員会」第11回定例会議において、100人委員会ガイドブック「第2版」を配布します。



8月「運営会議」にて報告した「第1次案」に対するプロジェクト外や委員会外も含むコメントに基づき提案した「第2版(ラフ案)」の承認や、その後の運営事務局・京都市所管との検討を経て、「第2版」完成しました。  
第11回定例会議において、100人委員会ガイドブック「第2版」を配布します。

「第2版」作成の改良点は、下記の通りです。  
1) 2頁と3頁の内容をリンクさせ、具体的な「協働」や「連携」の事例を示す。  
2) 目的を絞った構成を工夫する。  
(GBプロジェクト 萩原三義さん)

「第1版」に対する主なご指摘やご意見は下記の通りです。(詳細に付いては、京都市未来まちづくり100人委員会HPの当プロジェクトの活動内容に掲載予定です。 <http://kyoto-machiza.jp/team?id=45>)

- 1、「第1版」では、100人委員会が行動してきた「協働」や「連携」の成果や実績が見えない。
- 2、見開きの2頁<委員会のイメージ図>と3頁<行動の実例>を、よりリンクして構成すれば分かり易いのではないかと。
- 3、文字数が多く「ごちゃごちゃ」している半面、限られたスペース活用に重複や無駄がある。
- 4、100人委員会が3期の間に活動してきた「今の姿」と、めざす「未来」が分かりにくい。

100人委員会に第1期から参加されている田村剛さん(モデル形成部会、歩きたくなるプロジェクト『あんぶら』リーダー)竹内香織さん(観光・交通部会、にこにこステーション・プレママバッチ普及キャンペーン【京都(°o°)/にこわく】)にお話を伺いました。(土岐)

お一人目は田村さんです。所属されている部会の活動について教えてください。

モデル形成部会の中で僕はポートフォリオ作成に携わっています。100人委員会は、組織ではなく一人一人が集まって何かをしようとしている会ですから、「一人一人」という原点に戻ってこれまでの歩みを見直す、というアイデアに賛同して参加しました。少し面倒さいと思われることもあるかもしれませんが、やってみたら結構ハマると思いますよ。

田村さんは1期からチームリーダーをされていますよね。3年間を振り返ってどんな感想をお持ちですか？

1期、2期では「歩きやすい道」チームで「歩みにくい道マップ作り」等の活動をしました。京都に越えてきて10年になるのですが、前々から「こんなおもしろいまちなのに歩みにくい道が多くて何とかしたい」と思っていたので、これに手を付けられたこと、京都市の土木事務所の方とお話をする機会があり応援してもらえたことが大変嬉しかったです。行政の人との協働のやり方がわかっていなかったということ、チームリーダーとしてもっとこうすればよかったかなあという点がいくつかあって、反省点のほうも多いですが。

3期では「歩きたくなるプロジェクト『あんぶら』」で、たくさんの方が歩きたくなるようにいろいろなものを提供しようと、ウォーキングイベントを開催したり、日常生活寄りのウォーキングルートを紹介するフリーペーパーを隔月で発行したりしています。第3期では新しい委員の方々を加わって活動の幅もぐんと広がりました。

おもしろい企画をいろいろ提案して下さるだけでなく、チーム運営に関することや、事務局や行政の方々の協働の仕方をアドバイスしていただいて勉強になることが多いです。他のチームの方にも声をかけてくださって、チーム活動に広がりが見られるようになってきたんですよ。



大学の研究室にて。

普段はどんな活動をされているんですか？

立命館大学大学院社会学研究科の博士課程に在籍しています。美学的な観点から「風景」をどのようにとらえていけばいいかを研究しています。それと、京都市内のホテルのフロントで国内外のお客様のおもてなしをする仕事をして10年になります。

委員の方にメッセージをお願いします。

『あんぶら』では、市民のおすすめのスポットを紹介しています。自分・自分たちの京都の「好き」を集めて多くの人と共有できたら素敵だなという思いでやっています。チームメンバーが「好きなスポットを教えてください」と言ってきたらぜひ協力してください。

お二人目は竹内さんです。所属されている部会活動について教えてください。

観光・交通部会では7月の定例会で「外国人からのメッセージ～京都の観光・交通～」フォーラムを開催しました。震災後に京都を訪れる外国人が激減したことに対して何とかなくてはというのは、京都をよりよくすることを観光と交通の2つの方面から考えてきた部会としては、振り返ってみてもしっくりいくテーマだったと思います。大きな部会で委員同士が知らないことが多いし、8か国のゲストをはじめ100委員以外の人も巻き込もうという企画だったので、準備は手さぐり状態で、初めは不安でした。でもやってみたら楽しかった。準備に時間をかけてみんなでいろいろとアイデア出しをして、シンポジウムでもたくさんの意見を言い合えることができ、成功した感があります。たくさんの方の知恵があるなとつくづく感じました。10月の全体行動ではシンポジウムで出された意見をパネル展示にして、京都の市民の人にも訴えかけよう準備を進めています。

プロジェクト活動についてはいかがですか？

「にこにこステーション」認定と「プレママバッチ普及キャンペーン」活動をしています。1期ではそれぞれが思いや思いつきを出し合ったという段階で、実際に事業が動き出したのは2期からです。「子ども」がキーワードという点では共通点がありましたが、自分の子どもの年齢の違いによる関心の違いもあるし、若者の支援をしたい方がいたりとか関心にも幅がありましたから。

そこから、「できること」と「やるべきこと」の2点から絞り込んだのが「プレママ・バッチの普及」推進と「にこにこステーション」の認定です。プレママ・バッチの普及事業では、事務局の小林さんが京都シネマの方を紹介して下さい、そこから「京都シネマさんがOKだというのなら」とCOCON KARASUMA(古今烏丸)の他の店舗の方からもとんとん拍子で賛同を得て、「人づての力ですごい」と思いました。

今は10月29日から11月6日の「プレマウィーク」、最終日の「京都(°o°)/にこわく/フェスティバル」に向けて忙しいです。

メンバーは4歳から60代までいろいろな仕事をしている人、経験をしてきた人が集まっていて、でも肩書きぬきで、まじめに、それぞれの思いを話ができる人たちなんですよ。いつも「ヤオモン」でぺちゃくちゃしゃべっているだけともいえますけど(笑)。実はメンバーはものすごく仲がいいのに100人委員会全体のことはわからないからということで3期では、全員がばらけて全ての部会に所属することにしました。定例会議外でも集まっていますから。

100人委員会以外での活動を教えてください。

今年の4月から京都市の事業で厚生労働省が推進している「つどいの広場」で仕事をしています。京都市内で23か所あるうちの一つです。

幼稚園就園前の親と子との居場所といった位置づけです。好きな時間に好きなだけいて、母親同士が日常生活の話などをしていきます。初めての子育てをする産休とりたて・なりたての母親って、会社勤めの友人には電話もできないし、周りに友人がいるわけでもなくて結構孤立しているんです。

それと、NPO京都子どもセンターの理事長をしています。小学生のころから出身地の中津川(岐阜)で母親に連れられて「子ども劇場」に通っていたんです。

地域で子育てをしていこうと約40年前に福岡で子どもの母親や大学生が中心になって生まれた活動で、「子ども劇場」または「親子劇場」は全国にあります。一時期遠のいたこともあります。小学生以来ほぼずっと関わっていて、京都の子ども劇場を引き継ぎNPO団体として設立したのが現在の「京都子どもセンター」です。最近のイベントとしては「おやく狂言会」や「無人島一週間チャレンジキャンプ」などがあります。大学生など若者も加わってやっていきます。

「子どもセンター」ですが、いわゆる「子ども」だけを対象としているわけではないんですよ。関わる人すべて、若者も大人も、常に気づきがあり学びがありますから。実は、高校進学を控えた春休みに参加した全国大会で設立者が話してくれた「子ども劇場」の名前の由来がずっと心に残っていました。「子どもと大人は全くの別ものではない。小学生が小さい子どもだとしたら、中学生は中くらいの子。大人は大きな子どもだ」って。「子ども劇場は小さな子どもたちだけのものではなく、全部の子どものための活動だ」という思いが込められている」って。それから、ずっと何がしかの形で地域で子どもとともにみんなが育っていくという活動をしています。実は自分から主体的にやっているというよりは、その時その時に人から誘ってもらっているうちに、今こうしているという感じなんですけどね。

定例会議に子どもたちを連れて行って、うるさいことがあったかもしれません。でも、子どもがいるというのは普通のことですし、悪いことをしたら子どもに直接叱っていただければと思っています。これからも自分の思いを語りあう100人委員会がいいなと思います。

最後にメッセージをお願いします。

全体行動では、大きな子どもになってみませんか！！

お二人ともお忙しい中お時間を作っていただきありがとうございました。



ご自宅にて。



実咲(みさき)さんと勇魚(いさな)君と一緒に。



篠原さんとそうちゃんも一緒に。



お手製のピザ！

## 来月の関連イベント

10月23日「京都未来まつり2011」

まちづくりに関心のある市民が語り合う日

- 日時  
10月23日(日) 11:00~18:00
- 会場  
新風館
- 内容  
京都市未来まちづくり100人委員会は、京都の未来を白紙から考え、提案するだけでなく行動、実践に結びつける共汗型の委員会としてこの3年間活動を続けてきました。これまでの取り組みを見て、聞いて、体験して、語り合い、共に明日の京都を創りましょう！

東日本大震災、被災者義援金募集

東日本大震災の被災者の方々を少しでも支援するために、今月も引き続き義援金を集めます。

今月も定例会議時には「みつばちカフェ」に募金箱を用意します。皆様のご協力をおまわしています。



## 編集後記

今月はイベントも少ないし・・・と油断していたらあっという間に時間が経ってしまい、またしても絶体絶命。いつになっても慣れません。

最後は見かねた土岐さんが大活躍してくれて、なんとかかまとめることができました。土岐さんありがとうございました。

今月はいつもより「委員の横顔」が多くなりました。毎回編集していても新たな発見があって個人的に一番楽しみにしているコーナー。今月もやっていると良かったなと思えるお話をいただきました。前回の内藤さんもそうでしたが、1期からご活躍なさっている委員の方のお話は、100人委員会の歴史およびこれまでの流れがわかって興味深いですね。急なお願いに応じていただいた田村さん、竹内さん、本当にありがとうございました。

来月はいよいよ全体行動があります。編集時点ではまだ最終的なプログラムを見ていないので内容はわかりませんがみなさんの企画を取材させていただき、寄稿をお願いするなどご協力をお願いすることになると思いますので、その際はどうぞよろしくお願いたします。取材等のお問い合わせを含め、連絡先は、[vitalization2011@gmail.com](mailto:vitalization2011@gmail.com)です。

さて、政治のもたつきや台風など、復興への足取りはなかなか進みませんが、今月もみつばちカフェにて、東日本大震災の被災者義援金を集めます。ご協力よろしくお願いたします。最後に、今月号にご協力いただいた全てのみなさま、寄稿いただいた萩原さん、本当にありがとうございました。(早崎)